Gallery
愛海詩
えみし

書家（札幌市）
阿部和加子
出合い◇□◇色紙展
8月21日～9月8日

特別号　No.37
愛海詩の会
会　報
平成25年8月15日発行
編集発行人／ギャラリー愛海詩
佐藤睦子
〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX／(011)613－1112
WEBSITE
http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com

真・善・美

朝、四時頃目ざめることがあります。あたりは、ほの明るくなり、様々な小鳥たちのさえずりは六時頃には止みます。そういう日の始まりは、ゆっくりコーヒーを飲み、今日一日のギャラリー愛海詩での出合いに思いを馳せたりします。

さわやかな風が吹くような人、明るい光に満ちた人、華のような馥郁とした香りを漂わせる人、その人が醸す自然な佇まい。そしてまた、水面に石を投げかけるような波紋を描く人、ざわざわとさわがしい人なども…。

出合いは何時も一期一会、同じ人でも時と場合によって変わったり、似ていたり、一会がまったく同じ一会になることはありません。ですから余計、その一会が大切に思う時があります。そしてまた、大切に思える一会を重ねたい、とも思います。

それは人だけではなく、作品との出合いにも同じことが言えます。美しい作品を見たら、そこから動けなくなることが時々あります。ただ美しいだけではなく、そこに流れる時や空気感が自身の在りかを忘れさせるような…。それは理では計り切れない真実であり、人の心を善く鍛えてくれる美しいものでもあります。

すばらしい人や作品には、真、善、美のトライアングルがあり、そこには魂が宿ります。科学の力を遥かに越えた、理無い摂理が宿るのです。人や物との出合いの中で、あなたは自身を大きな自然の中へ遊ばせて、そのトライアングルを体現すれば、あなたに出合った人々は、その人なりの一輪の華を風にゆられ光のように咲かせて、あなたを含め多くの人々に返してくれる…それが自然の摂理、トライアングルの行き方なのです。

風、光、華、その自然の豊かさを身をもって示して下さる人との出合いには、真、善、美の紛いのなさを感じ、とてもうれしく思うのです。

（佐藤　睦子）

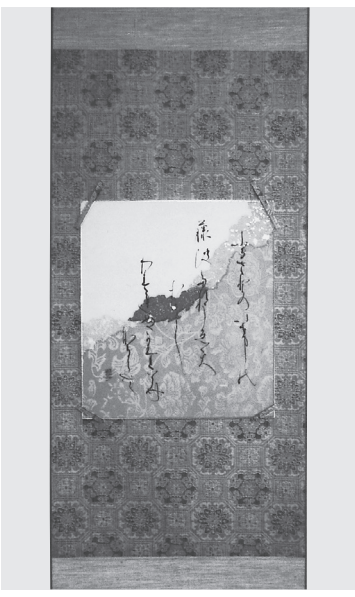
阿部和加子氏

■ 略　歴 ■

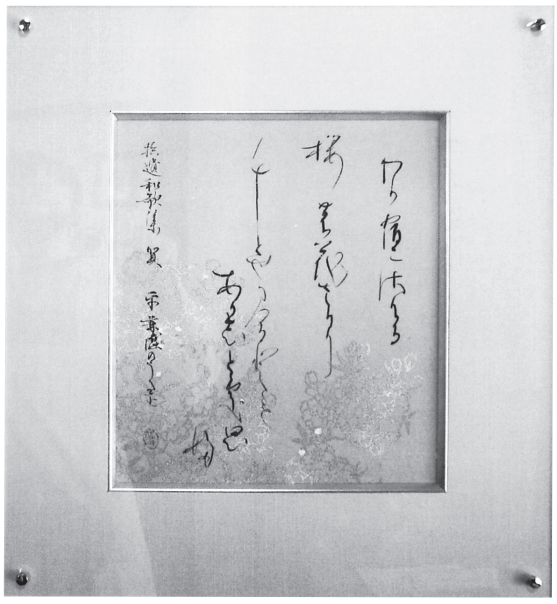
1947年生まれ、藤女子大学国文学科卒業
故　松本春子氏、故　山口南艸氏に師事
1984年　北海道書道展、準大賞
1994年　書道わか葉会・主宰
1997年と1999年に読売書法展、読売新聞社賞受賞
1998年　神戸笹波会展笹波賞
●日展会友　●朝日カルチャー札幌校講師　●北海道書道展理事・審査会員　●草心会副理事長　●読売書法会理事　●北海道書道連盟参与　●北海道文化審議副会長

写真右はしとまん中の色紙の大きさは、たて二七センチ、よこ二四センチです。歌に添うように色紙が選ばれ、色紙に添うように掛け軸が設えております。軸、額、色紙共に、阿部和加子氏の直筆で、優美な作品です。床の間や、お部屋に掛けられ、その気韻を愛で、楽しんでいただければ、日々の潤いになります。

額　たて37cm×よこ49cm
秋の夜のほがらほがらと天の原
てる月影に雁なきわたる
（賀茂真淵）


色紙・「藤波」
故郷の池の藤なみたれ植て
むかし忘れぬかたみなるらむ
（源　実朝）

色紙・「大海原」
あしひきの山のはいづる月かげに
大海原の波を見るかな
（明治天皇）


額・「桜美」　たて42.5cm×よこ39.5cm
我が宿に咲ける桜の花ざかり
千とせ見るとも飽かじとぞ思ふ　（平　兼盛）

ご挨拶　～作品展によせて～
書家　阿部和加子

謹んで一筆御挨拶を申し上げます。

私は六歳から習字塾に通いはじめ、十二歳で仮名書道と出会いました。墨の香が好き、書道の文化にかかわる様々な和の雰囲気が大好きと少女期から憧憬を持ってこの道を歩んで参りました。十七歳迄私に書の基礎を御導き下さいました故上田光陽先生の塾から巣立って仮名書道一筋の大家故松本春子先生が主宰なさる「さわらび会」へ入会させて戴きました。松本先生の許、女流書家のあるべき姿の多くを学ばせて戴けた思い出のこの二十四年間は私にとりまして学生・結婚・出産・育児・老人介護と人生の峠を越える時期でもありました。師と母を送り、不充分な実力を自覚し向学の志止み難く、再スタートの決意を持って四十二歳の夏、神戸の故山口南艸先生の門を叩かせて戴きました。

家族や門人の応援を胸に平安王朝文化に花開いた王朝仮名の勉強の為、月一・二度機上の人となって学んで参りました。心燃え、憧れは学書と昇華し、必ずや、かの遣唐使が中国大陸から文化を運んだように、私も北海道の地に王朝仮名書の学びを運ぶ学人となるべく決意を持ち続けた二十二年間でございました。

習字塾で筆を持ってから六十年の節目の年に、神戸市原田の森美術館で「慈しみと祈りの歌を第一回阿部和加子書作展」を開催させて戴き、又本年一月には引き続き札幌大丸藤井セントラルでの発表の場を頂戴出来ました。沢山の方々との出会いに支えられた仮名書道の道は、そのままよろこびと感謝の祈りとなって私に筆を持たせてくれます。

この度「愛海詩」の佐藤睦子様のお計らいで、再度私の小さな仮名書展を催していただける事となりました。慈しみあふれる短歌や俳句の文言に心を揺さぶられながら、想いをこめて書かせていただきます。御高覧賜りますればこの上ない幸せでございます。

今年の春、阿部和加子氏は、書道を始め、六十年にして初個展を開催されました。これほどの先生が初めての個展、ということに驚きました。しかし、それは阿部和加子氏の矜持であるような気が致しました。とても美しい展覧会で、その時のさくさくした心に滋養の雨をいただいたような感動がありました。その展覧会を拝見して、何か背中を押すものがあり、機はそこに熟しました。そしてこの度の愛海詩での作品展の依頼をさせていただいたのです。八面六臂のご活躍をされている阿部氏が「いいですよ。」と自然の風が吹くように即答して下さいました。気付けば私は、阿部氏と初めて出合ってから十五年の歳月が経っておりました。

そしてまた、上記、阿部和加子氏のご挨拶文の中で、特に、遣唐使云々の下りで私の胸は、いっぱい、いっぱいになりました。阿部氏がなされていることは正に、書を通して文化の種を蒔き、育てているということです。人知れず、血の滲むような努力も重ねておられることでしょう。そういった中で「書をやめようと思ったことは一度もない…」ときっぱりと言い切ります。書の道を北の地に知らしめ、広め、いつも美しくいらっしゃる阿部氏の感性が好ましく、私は、電話で少しお話しするだけでも、静かなエネルギーをいただいています。尊敬申し上げる女性のお一人です。

今回、ギャラリー愛海詩で初めての作品展です。軸、小品である色紙、扇面、短冊など約三十点が出品されます。先日写真撮影の為、先に数点、作品を送っていただきました。壁にかけて眺めていると、あたりの空気感が違ってくるのです。それは理屈ではなく、本物がもつ佇まいの中に潜む、真理のようなものです。そのどれもが、清々しく、健やかで、美しいのです。

ぜひ、一人でも多くの方がこれらのすばらしい作品と出合われることを願っております。

ギャラリー愛海詩では、毎月１回いずれかの月曜日、阿部和加子氏を迎え、「愛海詩、月の書道」をさせていただこうと思っております。先着８名様でございます。詳しくはギャラリー愛海詩へお問い合わせ下さい。

☆お誘い☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

来たる**８月27日（火）、９月３日（火）の両日、午後１時30分から午後３時頃まで、「阿部和加子氏を囲む会」**をいたします。場所はギャラリー愛海詩２階。お茶、お菓子付きで参加料は無料です。両日共、先着８名様です。作品の解説、書への思い、ご自身のことなど語っていただけます。少人数のなごやかな茶話会です。ギャラリー愛海詩までお早目にご予約下さいませ。

お知らせ

10月19日（土）、20日（日）、ギャラリー愛海詩15周年を徳川宗家19代に当たる**徳川家広氏**を迎えて開催いたします。両日共、記念講演をしていただきます。**19日（土）歴史の話し、20日（日）経済の話し**、詳しくはギャラリー愛海詩へお問い合わせ、ご予約下さいませ。席に限りがございます。